

インクルーシブ社会の実現と大学の役割 —教育研究拠点形成に向けた道程

バリアフリー教育開発研究センター専任教授
星加 良司

本センターでは開設以来、多様性に開かれたインクルーシブ社会を実現するための教育研究拠点形成を目指して活動を続けています。とりわけ 2017 年度からは、2 期にわたって学内の競争的資金を得て、中期的な事業計画に基づき体制整備と研究教育活動の拡充を図っており、その成果が形になりつつある段階です。ここでは、本活動報告の対象期間である 2021-2022 年度が、上記 2 事業の節目のタイミングであったことを踏まえ、両事業の関係と現在の到達点を確認するとともに、今後取り組もうとしている課題について整理しておきたいと思います。

まず、2021 年度まで実施されていた「バリアフリー教育開発研究センター拡充整備事業」においては、①学校の教育課程を含む社会システムをインクルーシブなものに転換するための基礎的研究及び②その知見を社会に還元する手法と体制構築に関する基盤的研究を集中的に展開しました。これは、従来本センターで蓄積してきた知見をベースとして、インクルーシブ教育の実践校やダイバーシティ推進に取り組む企業等との連携により、現場の実践知と学術的な理論知をつなぐことで、インクルーシブな社会・集団・組織への実効的な変革を可能にする鍵を見出そうとする基礎研究として位置づけられます。その結果、①に関しては、インクルージョンを阻む「バリア」に関する調査分析が蓄積され、その知見を踏まえて、組織・集団のインクルーシブネスや改善ポイントを可視化するための各種指標の開発・整備が進みました。また②に関しては、①で確認された改善ポイントに対する効果的な変容を促すための各種教材・プログラム（E ラーニングを含む）を作成する一方、それらを用いて知を共有・共創していく効果的なペダゴジーの探究とそれを実装するためのプログラム開発（講師養成プログラムを含む）を進めることで、知の社会還元と持続的な継承・発展のための基盤が準備されました。

これら①・②の成果を踏まえ、2021 年度後半から開始された「インクルーシブな知性の育成とダイバーシティ実現のための教育・学習環境改革事業」においては、③性別／性的指向、民族／言語、障害、経済格差等多様な特性や背景を持つ人々を包摂する学校づくり、地域づくりのモデル事業を展開し、そこで得られた実践知を収集・体系化するアクションリサーチ（学校をハブとするインクルーシブな地域形成事業）及び④その知見を元にインクルーシブ社会の構築に寄与するリーダー人材育成カリキュラムを学

内外で展開する取り組み（インクルーシブな知性を育てる専門教育・教養教育のカリキュラム開発事業）を、相互に関連づけながら推進しています。これらの事業は、国連のSDGs等において貧困の解消、ジェンダー平等、国内外の不平等是正等が重要な課題とされ、また「ポストコロナ」の社会状況がそうした問題を拡大・増幅させる恐れが指摘されている中で、大学が果たすべき役割として強く社会から要請されているものであると考えられます。現在までの1年半の取り組みの成果としては、③に関して、協力自治体との連携により教材開発・教員研修開発等を含むモデル事業を展開するほか、各種調査を実施することにより、インクルーシブな学校づくり、地域づくりに関する知見を他の学校・自治体に横展開する段階に入りつつあります。また④に関しては、学部後期課程向けの学部横断型プログラムとして既に実施していた「バリアフリー教育プログラム」の内容を改変・拡充して「ダイバーシティ・インクルージョン教育プログラム」を開設するほか、キャンパスの中で居づらさやつながりづらさを感じているマイノリティ学生/教員の学び合いの場として「教育学部セイファースペース」を開室することで、マジョリティ中心に構築されてきた知のあり方を相対化する新たな学びの可能性が模索されています。

東京大学では、「いま現実にある不公正や理不尽な格差を是正しうる真摯な対話の実践を通じて、分断や閉塞を乗り越え、より良い未来社会をともに実現すべく学知の創出に努め、幅広い社会との協創を生み出す」ことを理念として掲げました（UTokyo Compass）。また、その中で教育学研究科においては、グローバルな共生社会の実現に向けた格差と分断に挑む「架橋する教育学」の研究拠点構築がめざされています。こうした文脈の中で、ここで紹介した本センターの取り組みは、中核的な機能を果たしうる可能性を秘めているものと考えています。今後、③・④の事業をさらに推進するとともに、学部前期課程向けに整備が進んでいるダイバーシティ&インクルージョン関連のカリキュラムとの接続・連携を強化することにより、東京大学において、教養教育から専門教育までの体系化されたカリキュラムを通じて社会の各領域でダイバーシティ&インクルージョン推進を担うリーダー人材を育成する教育拠点が形成されることも、現実的かつ実現可能な目標となってきました。近い将来のそうしたビジョンを見据えつつ、さらに研究教育活動を充実させていきたいと考えています。